

# 進捗報告書（実行団体）

Version 1.0

2021年10月4日

<b>事業名:</b>	精神的孤独に起因する自殺対策事業 ～相談窓口の拡充と支援者の養成～
<b>資金分配団体:</b>	公益財団法人 信託資本財団
<b>実行団体名:</b>	認定特定非営利活動法人 京都自死・自殺相談センター
<b>実施時期:</b>	2021年6月～2022年2月
<b>事業対象地域:</b>	京都府、全国
<b>事業対象者:</b>	精神的孤独を抱える若年層（10-30代）

## I. 事業概要

### 事業概要

増加し続ける若年層の自殺を防ぐために、自殺の要因となる精神的孤独・社会孤立を抱える若年層に対して、3つの事業を行う。1つは、当相談センターにおいて若年層からの相談が多いメール相談窓口を拡充させ、短期・集中的に支援を行う。2つは、ゲームフィクションを活用した相談アプリケーションの開発・運用を行い、長期・持続的な支援を実施する。3つ目は、企業・法人を対象に、自殺の危険を示すサインに気づき、適切な対応を図ることができる人材を増やすために実践的な研修事業を行い、企業のメンタルヘルスケア促進を図る。

## II. 進捗報告の概要

### 総括

全体として日程の遅れは生じているが想定の活動を順次進めている。特に事業費の大半を占めるアプリケーションについては、リリース前に検証を踏まえてテストにしっかり時間を費やした方が良さだろうと判断し、当初よりリリース時期を1ヶ月遅らせた。また、メンタルヘルスに資するアプリであることを鑑みると、2月はじめにリリースした直後は、ネガティブな評判・フィードバックのリスクを下げるため、まずは関係者周辺で検証回しながらミニマムスタートを行うべきだろうと考えている。懸念点として、利用者が増え続けサーバー容量を超えてしまうと、サーバーがダウンしてしまう、あるいは、容量追加のために課金を繰り返す必要が出てくる。そこで、サーバー提供会社に、非営利な事業であること、ならびに、事業の社会的な意義に賛同してもらい、サーバー無償提供などの可能性について相談していかなければならない。サーバーだけでなく、リリース後の保守・運用にかかる費用の課題について、今後本格的に企業への営業などを行なっていく必要がある。

### Ⅲ.活動実績

アウトプット（今回の事業実施で達成される状態）	進捗状況
<p>1) 精神的孤独を抱えている若年層の孤独が緩和されている。</p> <p>指標 1-1)メール相談窓口の相談件数 1-2)アプリケーションダウンロード数 1-3)アプリケーション利用回数</p>	<p>メール相談の窓口拡充を9月より実施。待機相談員を2名にしたことによって、メール相談受付窓口の受付中の時間がこれまで月平均390時間だったのに対して、9月は578時間と増加。メール数自体はゆるやかな増加に止まっているので、より多くの相談を受け付けるべく、10月からは広報にも力をいれる。アプリケーションについては、その内容や方向性に目処がたったため、今後は開発チームの進捗確認を行う。この事業はリリースして終わりではなく、アプリケーションに溜まったデータを駆使しながら、若年層の自殺の問題、メンタルヘルスの問題に寄与していくものである。そのため、本助成終了後を見据えながらアプリケーションの保守・運用のために、社会的課題に関心を持つ企業などへ、事業の重要性を訴え、CSRなどの方面などからの投資を促していく。</p>
<p>2) 精神的孤独を抱える人の支援者が増えている状態。</p> <p>指標 2-1)研修事業に参加する企業(会社/法人)数 2-2)研修事業の受講者数</p>	<p>研修プログラム策定に時間を費やしてしまっている。当初は2021年12月までに事業終了を見込んでいたが、2022年2月までの事業期間に延長し、目標値をクリアするべく事業を進めていく。</p>

活動	進捗状況	概要
1) メール相談窓口拡充	1) 当初より1ヶ月遅れで窓口拡充を実施。	1) 相談員の質を上げるために、当初より相談員の養成期間を伸ばしたため、1ヶ月遅れて窓口拡充を実施するに至った。9月より相談員が2名待機（これまでは1名）して、相談業務にあたっている。
2) アプリケーション開発運用	2) 当初より1ヶ月遅れでリリース予定。	2) リリース前に検証を踏まえてテストにしっかり時間を費やした方が良いだろうと判断し、当初よりリリース時期を1ヶ月遅らせた。その他については、信頼する精神科・心理系の専門家や、開発チームのデザイナーたちと有意義なディスカッションをしながら進めることができている。
3) 企業研修	3) 当初より遅れている。事業期間を延長する。	3) 営利企業での研修実績が乏しいため、企業研修を行うにあたっての当相談センター

		の強みはどこあるのか、どうすれば企業に売れるのかなどについて、議論を重ねている段階。当初は2021年12月までに事業終了を見込んでいたが、2022年2月までの事業期間に延長した。
--	--	---

#### IV. 事業実施後（1年以降）に目標とする状態への所感（中間時点）

自由記述
<p>アプリケーションの開発については、国内・海外の先行事例をリサーチするとともに、信頼する専門家から有意義な助言をもらいながら、開発チームのデザイナーたちと有意義なディスカッションをしながら進めることができている。今後の予定は、デザインチームからデザイン案を共有され、それをもとに資料を制作し、対人支援の団体へ協力の依頼をおこなうとともに、企業へリリース後の保守・運用にかかる費用協力の営業をおこなっていく。11月より、月に1度程度、事業に賛同する様々な業界の有識者たちとオンラインイベントを開催し、参加者にはアプリケーションリリースを案内するための連絡先を収集する。賛同する企業や団体を巻き込んでいくことができれば、社会的なインパクトは十分に生み出せるものと感じているので、検証・テストをしっかりと行い、リリースに向けて準備を整えていく。本助成終了後を見据えながらアプリケーションの保守・運用のために、企業などの協賛をいかにつくっていきけるのかが鍵となると考えている。</p> <p>メール相談の窓口拡充については、当初より1ヶ月遅れてしまったが、無事に拡充を実施できている。具体的には、9月より相談員が2名待機（これまでは1名）して相談業務にあたっている。これまでは相談員不足のために、多くの相談が寄せられると対応が困難になるため、広報などは積極的に行っていなかった。相談体制が充実したため、より多くの相談を受け付けるべく、広報にも力を入れていきたい。</p> <p>企業研修については、進捗状況が遅れている。当相談センターが営利企業での研修実績が乏しいため、企業研修を行うにあたっての当相談センターの強みはどこあるのか、どうすれば企業に売れるのかなどについて、議論を重ねている。当初は2021年12月までに事業終了を見込んでいたが、2022年2月までの事業期間に延長した。一方で、様々な観点からフィードバックを受けており、本助成事業終了後の当相談センター収益事業の一つの柱となるような取り組みに育てていきたいとの願いはより一層強くなっている。</p>

#### V. インプット

		2020年度	2021年度	合計	執行金額	執行率
事業費	直接事業費	¥0	¥18,900,000	¥0	¥1,360,000	7.2%
	管理的経費	¥0	¥810,000	¥0	¥0	0%
合計		¥0	¥20,000,000	¥0	¥1,360,000	6.8%
補足説明		<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理的経費について実際の執行金額欄は「27万円」だが、会計処理のミスがあったため「0円」と記載する。</li> <li>・執行率が低い理由は、アプリケーション開発における委託費用をまだ支払っていないため。</li> </ul>				

## VI. 事業上の課題

### 事業実施上顕在化したリスク/阻害要因とその対応

当初より見込まれていた「倫理的な問題（自殺の問題に対してテクノロジーを活用することへの批判など）」に対しては、弁護士で当相談センター理事長の生越に助言をもらうとともに、精神科医や臨床心理士から本アプリケーションの意義を語ってもらい発信することにより回避できるものと見込んでいる。また「自殺防止」などと直接的に謳ってしまうと誤解を生じさせるリスクが高まるため「心の健康」「メンタルヘルス」というキーワードで発信していく。

また、こちらも当初より想定された「持続性の問題（アプリケーションを持続的に運用、さらには発展的に展開するための資金不足）」に対しては、これから社会的課題に関心を持つ企業などへ、感情ロギングと可視化による重要性を訴え、CSRなどの方面などからの投資を促すこととなる。

## VII. その他

### 自由記述

特になし

## VIII. 広報実績

広報内容	有無	内容
メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	無	
広報制作物等	無	
報告書等	無	

## IX. ガバナンス・コンプライアンス実績

ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1. 社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。	はい	
2. 内部通報制度は整備されていますか。	はい	